

シミンのジリツを支援するNPO法人

シミンズシーズ

年次報告書 2025



／ キーワードは
「やってみたい！」

2025年度 総括

新体制でスタート!「シミンズシーズのこれから」を検討!

2025年度、シミンズシーズは法人設立 24年目を迎え、大きな経営の転換期を過ぎました。これまで培ってきた市民活動支援や公共施設運営、教育、保育といった多様なフィールドでの知見を活かしつつ、今年度は組織体制を刷新。代表理事の交代とともに、現場での実践・実行を担う「DO-TANK」としての役割を強化し、コンサルティング部門の分社化や加古川のまちづくり事業の集約を行いました。この節目において、新理事や事務局長らによる「戦略会議」を設置し、次期指定管理申請や保育園の5周年という重要なタイミングに合わせ、向こう5年を見据えた「2026-2030 中期 VISION」を検討し、次なるステージへの組織基盤を考える一年となりました。

事業面では「市民参加」を全体方針に掲げ、2部門体制で取り組みを深化させました。1つ目のまちづくり部門では、東播磨生活創造センター「かこむ」が指定管理5期目の最終年度を迎えました。スタッフ全員がコーディネーターとして「一緒につくる」運営を積み重ねた結果、パートナー（ボランティア）登録者数が前年度から大幅に増加し、日常的な市民参加型運営の基盤が確立しました。また、JR 加古川駅周辺の再整備を見据えた社会実験事業「CROSS LAB KAKOGAWA 2025」に参画。市民参加型ワークショップ「駅前カイギ」を通じて、こどもファッションショーや将棋、音楽ステージなどの市民企画に取り組みました。さらに、地元企業 16 社やクラウドファンディングによる 88 名の支援を得て「かわのまちイルミ」を初開催するなど、まちなかをみんなで作る市民参加の実践を積み重ね、地域に新しい風景をつくることに挑戦しました。

2つ目のまちなみ部門では、企業主導型保育園「かわのまちほいくえん」が5年目を迎え、園外の子どもたちや保護者、そして地域住民へと活動の輪を広げました。お散歩中に住民から名前と呼ばれたり、果実の収穫体験に招待されたりと、まち全体で子どもを見守る「まち保育」が地域に深く根付きつつあると感じています。商店街を歩行者天国にした「かわのまちみちあそび」では、シニアから学生まで延べ 350 名が自然に交流する姿や、保育園という特性を活かした新しいつながりの可能性が見えました。また、大学生インターンが主体となった「こども食堂」への挑戦など、若い世代が地域に場を創出する経験を通じて、主体性を育む機会も提供することができました。

2025年度は、各部門での「市民参加」を加速させるとともに、法人の将来像を固めた重要な一年となりました。2026年度からは、新たに策定した中期 VISION 「シミンひとりひとりの『やってみたい!』が循環し、『たのしい』がひろがる東播磨をつくる」を合言葉に邁進します。0歳から100歳まで、すべてのライフステージにおいてシミンの好奇心が循環し、誰もが活躍する地域の形を市民参画で追求してまいります。

2025 年度活動報告



もくじ

P.01 総括

P.03 シーズンについて

P.04 ハイライト

P.05 事業報告…まちづくり部門

P.13 事業報告…まちまなび部門

P.17 事業報告…法人管理部門

P.20 講師派遣一覧

P.21 決算報告

P.22 2026 年度事業計画

Vision

誰もが「市民」という役割をたのしめる社会へ

Mission

シミンの自律と自立を支援する

Service

“たのしい”のプロデュース

人のいるあらゆる場所、場面で、「自分でつくる」ことへの働きかけを企画するのが私たちの仕事です。

Vision 2030

中期 VISION

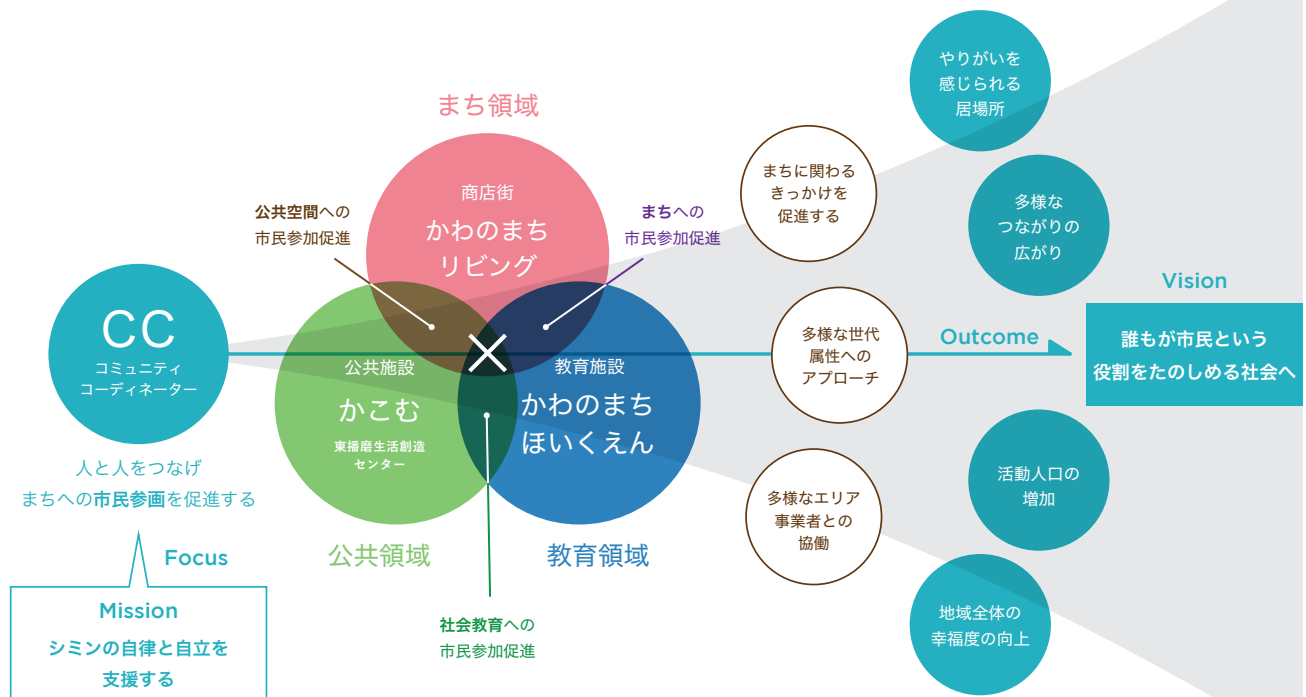
シミンひとりひとりの「やってみたい！」が循環し、「たのしい」がひろがる東播磨をつくる

合言葉：みんなが活躍する

Field

アプローチする領域

3つの領域(公共領域・教育領域・まち領域)で市民参画を促進していきます。



2025年度 シミンズシーズ ハイライト

2025年度にシーズで起きた出来事を
5つのトピックスにまとめました♪

1 「かこむ」6期目申請に向け 全体研修で考案

5期目最終年となった「かこむ」では、「つながる施設」「県民参加型施設」の土台を強固にし、多様なつながりを通して個々の可能性を広げてきました。次期申請にあたっては、全スタッフ研修に理事が参加し「かこむ」のこれからを一緒に考えながら進めました。6期目も運営を担うことが決定し、今後はこれまでの基盤を活かし、「やってみたいができる施設」を目指します。



2 これまでの歩みを基盤に、 まちの人とつくる保育

5周年を迎えた「かわのまちほいくえん」は、これまでの積み重ねを基盤に、園児とまちの関わりがより広がる一年となりました。散歩中の声掛けや折り紙の寄付、果実収穫など日々の地域とのつながりが豊かな学びへ発展。さらに園行事やオープンデーでの保護者との協働も一層進み、地域や保護者と共に子どもたちの育ちを支える温かい環境が深まりました。



3 新しいまちの風景を みんなで作る

50年ぶりの駅前再整備に向け、様々な使い方を実験する「CROSS LAB KAKOGAWA」に、シミンズシーズも参画しました。かわのまちマーケットでの実績やシーズが広げてきたつながりを活かし、いまある資源をみんなでつかい、みんなで作る企画に挑戦。駅前の道路を歩行者天国化するなど、駅前に新しい風景が広がりました。



4 まちとひとをつなぐ かわのまちイルミに挑戦

かわのまちマーケットから生まれた企画、「かわのまちイルミ」。約2ヶ月間、加古川駅〜じけまち商店街までを竹のランタンでつなぎました。市民の皆さんが喜んでくださる様子はもちろんですが、職人さんや商店街関係者の皆さんとの繋がりができたことも、本事業の大切な成果です。ご支援・ご協力ありがとうございました！



5 新体制スタート これからの シミンズシーズを考える

代表理事の交代と、これまでのコンサルティング部門独立により一般社団法人シミンズシーズ総合研究所を発足。戦略会議を設置して、これからのシミンズシーズの役割を集中的に検討しました。



(左上) 交流イベントの様子、(右上) ボランティアの活動の様子、(左下) 「ボランティア講座」の様子、(右下) 「kaco-LAB. フェス」の様子

市民参加型公共施設運営事業
東播磨生活創造センター「かこむ」指定管理運営事業

つながりと参加の「場づくり」から広がる可能性



交流会の様子

今年度は、指定管理5期目（2021～2025）の最終年度を迎え、従来の「つながる施設」「県民参加型施設」の基盤を充実させつつ、「新しい自分と出会える施設」をコンセプトに県民が自らの可能性を広げることが出来る場づくりに取り組みました。「つながる施設」としては、登録団体の交流機会として「kaco-LAB. フェス」をはじめ、「夏まつり」など交流イベントを通じて、年齢や立場を超えて多様な価値観や居場所に出会える機会をつくりました。単なる交流に留まらず、異なる考え方に会える場づくりを意識したことで、団体間でのコラボレーションによる新たな活動が自発的に生まれました。「県民参加型施設」としては、従来のボランティアによる運営参加の機会づくりに加え、他者の「やりたい」を後押しできる地域人材の育成に注力しました。ボランティア講座を開催し、現役ボ



交流会から生まれた団体主催の勉強会

DATA

相談対応件数	70,073 件
コーディネート件数	81 件
登録団体数	260 団体
交流事業実施回数	約 40 回
講座実施回数	21 回
登録ボランティア数	39 人
インターン受入数	23 名

ランティアの体験談の共有や、ボランティアをやってみたい人が相談できる機会を設けたことで、ボランティアへの参加のハードルを下げ、登録数が前年度から大幅に増加して39名となりました。5年間の最終年度として、人との出会い、つながりから日常の枠を超えた「新しい自分」を見つけ、個々の可能性を広げることができました。



みんなでつくる、まちの文化祭

2025年度のkaco-LAB. フェスは「まちの文化祭」をテーマに、全世代が楽しめる新しい学びやつながりが生まれる場として開催し、1,096名が来場しました。今回は、開催前の一週間を「LAB. フェス WEEK」として実施。「みんなでつくる」イベントとして当日に向けてkaco-LAB. 会員、ボランティア、来館者の多様な関わりしるをつくりました。



つながるからこそ できることも広がる

「かこむ」は「つながる施設」として、年齢や立場、属性を超えた人と人が出会い、交流を通して新たなアイデアや活動が創出される機会を大切にしています。今年度はテーマや内容を工夫した交流会を強化しました。また、季節ごとのミニイベントや公募型市民授業、「Kaco-LAB. フェス」などの主催事業においても、参加者同士の交流が生まれる仕掛けに取り組んでいます。これらの取り組みにより、偶然的な出会いをきっかけに団体同士のコラボへと発展した事例や、互いの活動を応援し合える関係性が生まれました。こうしたつながりを、地域へと広げる取り組みも進めました。

子どもも大人も成長する3日間 (かこむ de まなぼう)

8月に3日間で22教室の「かこむ de まなぼう」を開催し、延べ230名が参加。子ども達の学びはもちろん、講師側にも新たな発見がある場を企画。普段の活動を教室形式に置き換える講師も多く、次なる活動への大きな一歩となりました。子ども達と大人が共に成長し、地域に新たな学びの循環が生まれる兆しを感じることができました。

交流から生まれる 新たな関係性

コラボ企画の
実現！



kaco-LAB. フェスの打ち合わせ会での交流をきっかけに、「加古川健 康福祉事務所管内栄養士会」さんの研修会に「SMILE 顔ヨガ」さんが講師として招かれるコラボ企画が実現しました。kaco-LAB. 会員同士がつながることで、新しいアイデアや企画が生まれ、活動の幅が広がったエピソードです。

市民授業の例 (全22教室)

- ・親子でピザパン作り
- ・えんぴつで絵を描いてみよう！
- ・播磨の歴史クイズ
- ・万華鏡を作ろう …etc

「かこむ」で見つける！ 地域の第3の居場所

「かこむ」は県民参加型の公共施設として、ボランティアとともに「みんなで作る」運営を推進しています。今年度は「ボランティアの新しいカタチ」を目指し、「本のバトンタッチ会」や「読もうかい(会?)」といった、自主的な企画運営が広がった一年でした。また、「かこむ」主催のボランティア講座の開催や、ちよこっとボランティアの始動により参加のハードルを下げ、新たにデコレーションや学生サポーターという多様な関わり方も生まれました。結果的に10代から80代まで幅広い世代が関わるなど「かこむ」は地域に開かれた「第3の居場所」として定着しつつあります。



ボランティアデータ

23名 → **39名**
(ちょこボラ含まず)

	火曜図書パートナー	10名
New	金曜図書パートナー	9名
	フラワーパートナー	7名
New	デコレーションパートナー	10名
	シニア運営委員	4名
	窓口パートナー	7名
New	学生サポーター	5名
New	ちょこボラ	30名程度

新しいパートナー(ボランティア)の形

デコレーションパートナーは、館内装飾やワークショップ出展で、金曜図書パートナーは読書会の開催等を通じて、来館者との交流を育んでいます。学生サポーターはkaco-LAB. フェスでの独自の企画運営を行いました。自分のタイミングでちよこっとボランティア“ちょこボラ”は、チラシの折作業等で延べ30名程度の参加があり、多世代が参画しやすいボランティアの入口となっています。



日常にアクションをおこそう！ ボランティア講座の実施

ボランティア未経験層を対象に、全3回の育成講座を開催。ワークショップや現役ボランティアとの交流を通じ、活動を「もう一つの居場所」として捉える視点や、一歩踏み出すための具体的な内容を提供しました。知識習得に留まらず、「かこむ」のボランティアなど終了後の活動へスムーズにつなげ、地域の担い手育成に注力しました。



社協との連携で広がる地域の輪

加古川市社会福祉協議会との継続的な対話を通じて信頼関係と連携モデルを確立しました。社協主催イベントでスタッフが不足した際には相談を受け、かこむから3名を紹介して運営を支援するなど、日常的な協力関係が根付いています。この信頼関係をきっかけに「かこむ」への紹介が増えボランティアの相談で足を運んでくださる方が増えました。



情報発信を通じた「かこむ」の周知

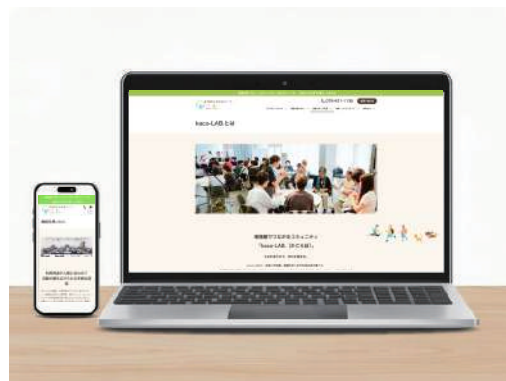
「かこむ」広報誌「kitena」は、日常的に利用できる居場所としての認知を広げることを目的に作成しました。発行の結果、広報誌をきっかけに相談にいられた方もおり、一歩踏み出すきっかけをつくることができました。また、WEBサイトのリニューアルを実施し、「かこむ」の最新情報を発信できるように整えることができました。これにより、利用者が必要な情報を簡単に見つけられるようになりました。これらを踏まえ、情報発信として、「かこむ」が取り組んでいることをより正確に幅広く伝えることを意識して取り組むことができました。



「かこむ」広報誌を見てイベントに参加された様子



kitena 春号の見開きページ



最新情報を分かりやすく届けるためホームページを改修

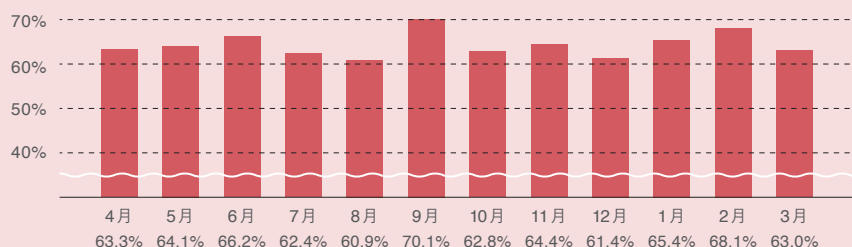


kaco-LAB. フェスに向け自分たちで企画を進める

若い世代との連携で広がる可能性

今年度、学生と社会人による「かこむ学生サポーター」が誕生し、「かこむ」のイベントへの積極的な参加が生まれました。若い世代の意見やアイデアを取り入れることで、より多様で活気ある活動が実現しました。「kaco-LAB. フェス2025」では、学生の視点を反映したスタンプラリーを実施したことで、参加者が全ての展示やワークショップブースをスムーズに巡回できる環境を整え、全世代が気軽に参加でき満足度の向上に寄与しました。今後も学生の企画・広報・運営への関与を継続し、トライやるウィークやインターンシップの受け入れを拡大することで、多世代交流と若者の就職活動支援を通じて、包括的で安心できるコミュニティづくりを目指します。

優良施設利用率推移 (2025年度)



施設データ

開館日数	348日
年間来館者数	175,570名
有料施設稼働率	64.30%



かわのまちマーケットだけでなく、イルミネーションや市民企画などまちをみんなで使ってみる企画を実施

市民参加型まちづくり支援事業・駅前空間の市民参加型事業

これからのまちをみんなで使いみんなでつくる



駅前空間にはストリートファニチャーを設置

「まちを手作りしよう」を合言葉に、加古川のまちなかを市民参加でつくる取り組みを継続して実施しています。2025年度は加古川駅前と商店街を舞台にさらに取り組みを拡大しました。現在50年ぶりのJR加古川駅周辺再整備の検討が進むなか、これからのまちなかを検証するために様々な社会実験が行われています。そのなかで加古川駅周辺の賑わいの創出や回遊性の向上・滞在空間を創出する実証実験を目的とする加古川市委託事業を受託したローカルデベロップメントラボに協力し、駅前空間を活用した市民参加型の企画運営に取り組みました。当法人主催で開催した市民参加型ワークショップ「駅前カイギ」では、加古川の地元プレイヤーや事業者など約50名が参加。自分たちが駅前空間を実際に使うことをイ

市民参加型ワークショップ 「駅前カイギ」開催概要

- 第1回 8月23日(土)
@かわのまちリビング
- 第2回 9月6日(土)
@加古川まるいビル
- 第3回 9月13日(土)
@加古川市立加古川図書館
- 第4回 9月25日(木)
@かわのまちリビング

メージしながら全4回の企画会議を開催し、参加者が中心となって考えた企画を2回に分けて実施しました。また、3年目を迎える「かわのまちマーケット」は、駅前からじけまち商店街までを竹製ランタンでつなぐ、「かわのまちイルミ2025」を企画実施。地元企業からの協賛支援や市民からのクラウドファンディングでの支援を得ながら多くの方に参加いただきました。世代を問わず「みんながまちをつかう」ことで、予想もしていなかった課題点や可能性を見つけることができる、そのはじめての一步が本事業であったと考えます。これからのまちを一緒につくる仲間を増やし、市民の「やってみたい」「たのしい」のタネにみんなが水をやり、まちを育てるきっかけの年となりました。



道ゆく人が自然と参加する仕掛けをあちこちに



「駅前カイギ」で市民が中心となって駅前イベントを考える様子

駅前広場や商店街の空間を活用した 当法人主催の企画イベント

市民企画（駅前カイギ）

- ・かこがわやる DAY!!
- ・かこがわボードゲームマーケット

かわのまちほいくえんとの連携企画

- ・しちへんげ！アートランウェイ！
- ・かわのまちみちあそび
- ・駅前みちあそび
- ・誰でも！うんどうあそび

通り過ぎる道から 過ぎたくなる場所に

加古川駅前の社会実験では広場を活用した市民企画をコーディネート。歩行者天国化企画など市民参加の取り組みを地元商店街の理解も得ながら進めました。市民参加で社会実験を実践する「駅前カイギ」では、まちなかの使い方をみんなで考え、様々な市民の取り組みを実施することができました。かわのまちほいくえんとも連携し、みちあそびや園児が考えた運動遊びなど、様々な公共空間のつかい方を実施。これまで通り過ぎるだけの空間でしかなかった商店街や駅前で、楽しい音楽や子どもたちの笑い声が聞こえ、通りすがりの市民が自然と足を止めて会話を楽しむ、新しいまちの風景をつくることができました。



88名 クラファン
参加人数 **16社** 協賛
企業数



共同運営 Bamboo Fam.、株式会社森建築工房

協力

加古川市、加古川ヤマトヤシキ、じけまち商店街、加古川駅前通商店街、カピル 21 専門店街、ニッケパークタウン

協賛企業一覧（敬称略）

アーバンフィット 24 加古川駅前店、オークラ工業株式会社、尾上ゴルフセンター、株式会社貝塚工務店、株式会社花浄院、株式会社スターエム、ツカサ電工株式会社、株式会社フジヤ號、但陽信用金庫、ツカサ電工株式会社、ニッケパークタウン、BAN-BAN ネットワークス株式会社、ブランシエラ加古川リアラス、前川建設株式会社、有限会社山石、ワイズホーム

まちを彩るイルミネーション企画

かわのまちマーケットの特別企画「かわのまちイルミ2025」では、「みんなでつくる」をコンセプトに竹ランタンをつくるワークショップを実施。法人で初めてとなるクラウドファンディングと企業協賛で資金調達に挑戦。地元・加古川から離れて遠方で暮らす人からの支援もあり、最終的に16企業と88名の市民から支援をいただきました。加古川駅南広場に設置したトンネル型イルミには企業名の入った竹ランタンや支援者名の入った竹札も展示。ただまちを彩るイルミネーションではなく、市民が様々な形でまちの未来について考え、これからの公共空間での過ごし方や駅前エリアの変化にも関心を寄せ、一緒に考える機会を創出することができました。



学生ボランティアも増加。出店者の子どもたちもサポート。



夜開催では出店者の工夫でのライトアップ

2025 年度実績

年間来場者数	44,245 名
開催数	12 回
総出店数	693 店舗
ボランティア数	142 名



商品名やコンセプトも参加者が考えて決定

協力出店者と企画販売商品

協力出店者：ERMINE COFFEE

コーヒーパレット
「今日のあなたを癒す一杯は？」
「はじまりの一杯MAP」

協力出店者：trente sept

アサイー風パンナコッタ
& ザクザクモルトクラッカー

協力出店者：ロージーカフェ

もみじがり弁当



出店の内容もさらにバラエティー豊かになり、おとなも子どもも楽しめるマーケットに成長。

新しい「居場所」に

まちなかでのゆるやかな関係性を育むことを目的に、毎月第一日曜日に定期開催しているかわのまちマーケットを、今年度も実施しました。今年度は加古川駅回遊性創出事業との同時開催や、「かわのまちイルミ2025」の企画展開など、加古川駅南側の広いエリアの空間づくりも視野に入れながら企画運営を実施しました。公共空間の使い方だけでなく、まちなかでのひととひとのつながり、ひととまちなかのつながりにも多様な広がりを見せています。出店する人、買い物をして来場する人、ボランティアとして参加する人、近隣で生活する人、様々な世代・属性の人が集まる中で、他愛のないことやちょっとした心配事を話せる場としても今後もさらに新しい可能性を見つけながら取り組んでいきます。



参加した若者とかわのまちマーケット出店者。参加者と出店者の交流は企画終了後も続いている。

当事業は、10代〜20代の若者世代が東播磨地域への愛着を深め、地域づくり活動への関心を高めることを目的に、兵庫県東播磨県民局からの委託を受けて実施しています。今年度はかわのまちマーケット出店者に協力を依頼し、商品を開発・販売するまでを全6回のプログラムで実施しました。協力出店者の商品への思いやかわのまちマーケットのコンセプトを踏まえながら話し合いを重ね、販売当日には地域のひととの会話を楽しみ販売する様子が見られました。プログラム全体の協力者として出店者の関わりがあったことで、まちのおとなが若者に目を向ける機会にもなり、若者が活躍するための場づくりや機会づくり、若者がやってみたいことを共にじっくり見守る関係性づくりにもつながる企画となりました。

商品開発に挑戦！

東播磨「ひと・まち」わくわく学び塾事業



みとろキッズ ファーマーズクラブ 2025 開催

加古川市の公共施設「みとろフルーツパーク」の運営支援も継続して実施。農業公園を活用し、子どもたちや親子の農業体験プログラムを運営しました。

【企画協力：うちだけのイキカタ】



2年目の 公民館運営

全国には7万を超える指定管理施設が存在するなか、公共施設の老朽化や財源不足、運営団体の高齢化など課題を耳にすることも多くなってきました。そんな公共施設を市民と一緒に考え、つかい、つくる取り組みを行っています。NPO法人ニュー☆ハリマとの共同事業体で「播磨町中央公民館」の指定管理運営(2024〜2026)を実施。2年目を迎えました。播磨町がつながる拠点としてコーディネーター同士の合同研修を行いながら、だれもが活用できるこれからの公民館づくりに取り組んでいます。



自分らしい人生を 選択できる力を

県内の定時制高校と農業大学校にて、卒業後の進路を見据え、「自分らしい人生を自ら選択する力」を身につけることを目的に、外部講師として授業プログラムを提供しています。昨年度に引き続き、定時制高校の1〜2年生を対象にした「未来を拓く特別授業」では自分の価値観や資質を掘り下げ、企業インタビューで世界を広げながら自己理解を深めて行きました。4年生を対象にした「シミンのジリツ講座」では、校外学習の企画を通じて、社会人基礎力やコミュニケーション力を高めることを目指し対話型授業を実施しました。今年度はスタッフ育成も兼ね、これまで外部講師の経験がなかったスタッフも同行しプログラム設計から実施までを行いました。

兵庫県立農業高校 定時制課程

1年生	61名	2回
2年生	52名	8回
4年生	3名	4回

兵庫県立農業大学校

1年生	36名	4回
-----	-----	----



(左上) 駅前みちあそび、(右上) 保護者と魚の手開きに挑戦、(左下) 標識ブームの子ども達が JR 加古川駅構内見学、(右下) 秋の公園

かわのまちほいくえん運営事業

巡るつながり、根を張り広がる関係性

運営5年目を迎えた「かわのまちほいくえん」は、これまで積み重ねてきた園運営を基盤に、日々の暮らしの中からまちとの関わりや活動が自然と広がっていく一年となりました。

散歩の道中に地域の方に声をかけていただく光景が日常となり、趣味で作成した折り紙やおもちゃの寄付など、子どもたちを気にかけてくださる存在が着実に増えています。何気ない挨拶をきっかけにご厚意で果実の収穫を体験させていただきました。日々の出会いが、子どもたちにとって生活を結びつけた遊びや学びへと発展しています。まちの人々に見守られながら育つ環境の豊かさを、改めて実感しました。

さらに、園運営においても保護者との協働が一層進みました。交流会の実施や行事づくりへの参画を通して対話の機会を重ねる中で、保護者が主体的に関わる機会が増え、「か



折り紙が得意なまちの方から卒園児へプレゼント



2月に年間の取り組みをまちに開放

わのまちなつまつり」ではブース運営にも携わる姿がありました。行事を共につくる関係性が育まれ、保護者をパートナーに園全体で子どもたちの育ちを支える基盤が深まった一年となったと感じています。

また、「遊び」を通じた関係づくりを目的とした「かわのまちまちなび事業」では、地域住民とともに遊び場を育てる取り組みを継続しました。11月には駅前商店街（ベルデモール商店街）を歩行者天国にした「みちあそび」を開催し、準備段階から複数の団体やボランティアと関わり合いながら場づくりを進めました。当日は道路に開かれた遊び場に約350名が集い、子どもと大人がともに遊び、見守り、声をかけ合う風景が広がりました。遊び場を介して人と人が出会い、関係が紡がれていく様子は、地域の中に新たなつながりを生み出していく手応えを感じています。



つながり広がる夏祭り



子ども達へのクリスマス会

保護者の企画一覧

クリスマスコンサート

かわのまちなつまつりでの出展

オープンデーの保護者企画

調理活動、農園水やり、科学実験
つなひき、ドッジボール、
泥棒ごっこ、ダンス、合奏、
サッカー、手つなぎおに、
かくれんぼ、絵本の読み聞かせ、
けん玉、表現遊び、手遊び、
紙芝居、パン作り

保護者との あたたかなつながり

今年度は、年度当初のオリエンテーションを通して、保護者の方々から保育園と積極的に関わってほしいという温かい思いが感じられました。園行事においても「一緒に参加しませんか」という呼びかけに対し、多くの保護者が子どもたちのために主体的に協力してくれました。夏祭りでは保護者主体の企画が行われ、共に行事を盛り上げることができ、運動会ではテント設営、クリスマス会では楽器演奏など、多方面での温かな関わりが見られました。オープンデーでは特技を生かした関わりや日常保育への参加もあり、心の通う連携が深まった一年となりました。



お茶会を体験。和の文化に親しむ。



まちの人との あたたかな交流

まちの人との関わりを通して、子どもたちは貴重な体験を積み重ねることができました。近隣にお住まい地域の方から「ざくらんぼがたくさん実っているので収穫しませんか」とお声掛けをいただき、収穫体験を通して季節を感じる機会となりました。また、近隣の製麺所を訪問した際には、うどん作りの工程や機械について丁寧に教えていただき、食への興味や関心を深めることができました。さらに、明石のお寿司屋さんに来て園していただき、恵方巻き作り体験を行いました。巻き簀を使って一生懸命に巻く姿や、給食で嬉しそうに頬張る姿が見られ、地域との関わりの中で心動かされる豊かな経験となりました。

まちの先生との活動一覧

運動教室(月に1回)
リトミック(月に1回程度)
絵本の読み聞かせ(月に1回程度)
就学準備教室(月に2-4回)
茶道体験(年に2回)
折り紙あそび(月に1回程度)
種まき体験・花の植え替え
廃材工作 人形劇 カリンバ体験
七夕用折り紙あそび 鯛の解体
凧づくり 伝承遊び
クリスマスコンサート
チョコレートづくり
節分恵方巻きづくり



給食室からの発信



SNS での給食紹介

給食室では、例年発行している「給食だより」に加え、新たにSNSで毎日の給食写真の投稿を開始しました。保護者のみならず、幅広い年代の方々に見てもらえるようになり、子どもたちが実際に使用している陶器やガラスの食器・食具についても知っていたり機会となりました。また、日々丁寧に汁をとっている中で、出汁からの再利用ができないかと以前から検討していました。子どもたちにも食べやすい形を目指して試行錯誤を重ねた結果、「出汁がら佃煮」を完成させることができました。子どもたちだけでなく保護者の方々からも好評で、現在では献立に欠かせない一品となっています。今後も「かわのまちほいくえん」の給食の魅力をより多くの方に知ってもらえるよう、給食にとどまらず様々な取り組みに挑戦していきます。

給食室の取り組み



学生が主体となって企画・運営した「こども食堂」



保育の行事を通じた地域との関わり

今年度は高校生や大学生を中心にインターンシップの受け入れを実施しました。保育活動や行事を通じて地域住民(まちのひと)との多様な関わりを体験してもらうことで、実践的な社会参加の機会を提供することができました。特に大学生の受け入れでは、学生が主体となる「こども食堂」の企画・運営を支援いたしました。当園が伴走しながら、企画設計やボランティアマネジメントといった実践的な準備プロセスを学生自らが担いました。幾度もの打ち合わせや試行錯誤を重ねて当日を迎えた学生は、地域に場を創出する経験を通じて主体性を育み、大きな成長を遂げました。当日は近隣住民や学生ボランティアが笑顔で交流する温かな場を地域に実現することができました。

体験と成長がつなぐ 地域住民との関わり

かわのまちふれあい食堂概要

ボランティア数：8名
提供食数：25食
(来場：大人13名、子ども12名)



(左上) 多世代が楽しんだワークショップ、(左下) みちで伝える伝承あそび、(右上) 折り紙あそびで交流、(右下) 道路を使ってチョークアート

かわのまちまちあそびの実施

まちあそびで育む、協働と継続の関係性

まちあそび企画概要

子どもたちが企画する
ものづくりワークショップと
室内遊びの回 (8月26日)

協力：5 団体
ボランティア：7 名
参加人数：95 名
開催場所：かこむ・たばす

かわのまちまちあそび
(11月2日)

協力団体：4 団体
ボランティア：11 名
参加人数：350 名
開催場所：バルデモール商店街

クラフトや伝承あそびを
楽しむクリスマスの回 (12月26日)

協力団体：5 団体
ボランティア：6 名
参加人数：81 名
開催場所：かこむ・たばす

遊びを媒介に多世代・多属性の交流を育む「かわのまちまちあそび事業」は2年目を迎え、今年度も地域づくり活動NPO事業助成を受けて実施しました。本事業は、関係性の希薄化が進む地域において、多様な主体が遊び場を共に企画・運営するプロセスを通じ、顔見知りを増やし継続的な関係性の構築を目的として実施。今年度は、夏と冬の長期休暇期間や11月の歩行者天国化した商店街を活用して実施した「まちあそび」を含む計3回の「あそび場」を開催し、延べ526名が来場しました。運営にあたっては、シニアや学生、地域団体等をコーディネートし、企画段階から関わりそれぞれの得意を持ち寄る協働の形を重視しました。このプロセスにより団体同士の理解や交流が深まり、事業終了後も相互

のイベントへ参加し合う等の関係性の深化につながりました。当日は、参加者が遊ぶだけでなく運営側にも回る余白を設けたことで、大人が子どもを自然に見守り、世代を超えて交じり合う光景が随所で見られました。

さらに11月には研修会を開催し、地域の実践者36名がつながりを深める機会を設けました。今後は、自発的な交流の場の創出や企画段階からのボランティア参画等の課題を改善しつつ、継続的なコミュニティの形成を目指していきます。遊びから生まれる温かなつながりが地域の日常となるよう、今後もネットワークの強化と持続可能な場づくりを推進していきます。



たのたね探究会の開催

「指定管理」と「あそび場」を探究する開かれた場を

これからのたのしい公共施設

日時：9月22日
場所：かこむ
参加者：52名
ゲスト：兵庫大学 田端和彦氏
グラレコ：岡田 英之 氏

東播磨あそび場づくりフォーラム

日時：11月16日
場所：加古川まるいビル3階
参加者：36名
ゲスト：
はっぴーの家ろっけん
代表 首藤義敬氏
スピーカー：
NPO 法人シムズシース
代表理事 阪口 努
かわのまちほいくえん
園長 柏木 輝恵

これからの「たのしい」価値観を探るための探究会を開催。今年度は二つの場を企画。地元市民団体やNPOをはじめ、自治体職員や指定管理者だけでなく、民間企業からも参加があり幅広い視点で「これからのたのしい」について探究しました。

「これからのたのしい公共施設〜新しい公民連携のカタチ in 東播磨〜」は、PPPや公民連携など民間の公共サービスの可能性が注目されるなか、指定管理者制度のあり方や民間の可能性を考える場として企画。兵庫大学協力のもと、指定管理者制度の歴史や課題について情報提供、参加者とともに理解を深めました。当日は、東播磨の自治体職員や指定管理者の参加もあり、様々な視点から情報交換する機会となりました。

「これからのたのしい場づくり 東播磨あそび場づくりフォーラム 2025〜多世代・多属性があつま

る場のつくり方」では、それぞれの「好き」や「楽しい」を持ち寄り、遊ぶように関わることで自然に関係が深まる場のあり方を考える機会として企画。

多世代・多属性の人たちが交わる「場のつくり方」に注目し、神戸市で「はっぴーの家ろっけん」を運営する首藤義敬氏をスピーカーに迎え、先進的な取り組みや地域での実践事例、その背景にある考え方を伺いながら理解を深めていきました。当日は、東播磨地域で場づくりに携わる実践者や地域住民などが参加。当法人のメンバーも交え、それぞれの視点から見た場づくりの対話を通じ、世代や属性を越えた交流を育むための具体的な手法や視点について情報交換する機会となりました。参加者からは、これからの地域における楽しい場づくりに対する前向きな意見が交わされ、ネットワークの広がりと、今後の活動への意欲を醸成することができました。



まちづくり部門、まちまなび部門ともに理事を交えた今後に向けた対話の機会や合同での研修機会を設けました

職員研修

協働と共有で組織の可能性を広げる

担当職員が事業ごとに異なり、日常的な接点が限られる状況もあるなかで、全職員の情報共有やチームビルディングを目的として、毎月1回程度の職員研修を継続して実施してきました。基本的には「まちづくり」「まちまなび」の部門ごとに専門性を高める研修を行っていますが、11月には全職員で場づくりを学ぶ合同研修を、3月には部門を横断した事業共有の場を設け、法人全体のつながりと相互理解を深めました。

まちづくり部門では、今年度は積極的に先進地への視察を行い職員研修で都度共有した他、ボランティアマネジメント研修など実践的な知見を蓄積してきました。特に、播磨町中央公民館を共同事業体として共に運営する「NPO法人ニュー☆ハリマ」スタッフとの合同研修（ファシリテーションや合理的配慮に関する研修）は双方の職員にとって良い

刺激のある機会になりました。他施設からの客観的なフィードバック受け、お互いの取り組みを知ること、自団体・自施設の強みや伸び代、運営のヒントが見え、新たな協働の視点を深めることができました。

まちまなび部門では、避難訓練や事故対応シミュレーション、AED・心肺蘇生法といった安全管理の徹底、外部講師を招いた食育研修など、基礎的・実践的な学びを継続しました。また、理事を交えてこれまでの5年間の歩みを振り返り次の5年を考えるワークショップを実施したことで、園の理念や保育観、園の可能性を改めて全員で分かち合うことができました。

今年度の取り組みを通じて得た多様な知見を活かし、今後も情報共有や職員研修のあり方を継続的に検討し、さらなる基盤強化に取組んでいきます。

法人全体での実施回数：12回

※以下の月は実施なし

- ・8月：まちまなび部門
- ・10月：まちづくり部門

外部講師を招いての研修回数：6回

ボランティアマネジメント研修(4月)

講師：榎本英樹氏

ファシリテーション研修

講師：泉森奈央氏

食育研修(7月)

講師：白水純平氏、谷口忍氏

東播磨遊び場づくりフォーラム(11月)

基調講演 講師：首藤義敬氏

保育安全研修(1月)

AED・心肺蘇生法

講師：セコム株式会社

合理的配慮についての研修(2月)

講師：濱口直哉氏

シーズ機関紙「たのたね」

社会の変化や当法人の活動内容を伝える機関誌「たのたね(これからの「たのしいのたね」の意)」は、27号目を1月に発刊しました。「かこむ6期目に向けた考え方」などを紹介しました。



vol.27
これからのたのしい
“活動人口”

総会

第24期通常総会の開催

出席者数：正会員総数48名中42名(うち会場出席12名、オンライン出席1名、委任状28名、書面表決1名)

日時：2025年6月15日(日)13時30分～16時00分

場所：かわのまちリビング

審議事項：2024年度(第23期)事業報告の件、2024年度(第23期)決算報告の件
一般社団法人シミズシーズ総合研究所への基金抛出の件、役員改選の件、定款変更の件

報告事項：2025年度(第24期)事業計画の件、2025年度(第24期)予算の件

理事会

- | | | |
|-----|--------|--|
| 第1回 | 5月26日 | 2025年度通常総会の議案書の確認、2024年度保育園補助金の積立について検討
2025年度活動予算・修正予算について、シミズシーズ総研の進捗状況共有 |
| 第2回 | 6月15日 | 代表理事及び副代表理事、常務理事の選出 |
| 第3回 | 9月10日 | 戦略会議の共有、東播磨生活創造センター「かこむ」の指定管理申請について
職員国内出張旅費規定改訂について、保育積立金について |
| 第4回 | 10月29日 | 新給与体系について、理事報酬及び謝金について、戦略会議の今後について |
| 第5回 | 3月6日 | 給与PJの共有・報告、保育積立金及び積立取り崩しについて
戦略会議の内容共有と進捗状況、理事報酬及び理事謝金にかかる利益相反手続きについて |
| 第6回 | 3月26日 | 給与PJ 2026年度給与について、2026年度予算の検討と承認
2026年度事業計画の検討と承認、各種規定改定について
播磨町中央公民館の指定管理更新について |

戦略会議

- | | | |
|-----|--------|--------------------------|
| 第1回 | 7月20日 | シーズの現状と「かこむ」の位置付け |
| 第2回 | 8月17日 | 「かこむ」の次期方向性について |
| 第3回 | 10月14日 | 「かこむ」2026-2030の企画について |
| 第4回 | 11月20日 | 人材育成の体制と事業展開案の共有 |
| 第5回 | 12月23日 | シーズはひとつづくり組織かまちづくり組織か |
| 第6回 | 1月26日 | シーズがひとつづくり組織としてどこへ向かうのか① |
| 第7回 | 2月12日 | シーズがひとつづくり組織としてどこへ向かうのか② |
| 第8回 | 2月15日 | 「かこむ」と保育を中心に「やってみよう」へ |
| 第9回 | 2月20日 | 事業方針とコンセプトの提案 |

2025年度役員

代表理事	阪口 努			
副代表理事	井原 卓也	佐伯 亮太		
理事	宇陽 裕司 白水 純平	柏木 登起 田中 茂	木上 裕貴 柳川 詔一	
監事	高橋 仁	豊福 一		
顧問	畑本康介			

2026年3月31日 現在

2025年度講師・委員等派遣一覧

兵庫県東播磨県民局	委員	東播磨地域づくり活動応援事業
合同会社 Roof	ファシリテーター	高砂市新たな学校づくり推進計画 WS
日本 NPO センター	パネラー	日本 NPO 学会企画登壇
高砂市人権推進課	委員	高砂市男女共同参画審議会
兵庫県東播磨青少年本部	講師	未来をひらく少年会議
(特非)コミュニティアートセンターブラッツ	講師	但馬コミュニティ協創会議
(特非)北播磨市民活動支援センター	講師	「伝えるコツ」ミニセミナー&交流会
加古川市社会教育課	アドバイザー	加古川市社会教育・福祉教育推進員 公民館エリア研修会(加古川北エリア)
加古川市社会福祉協議会	講師	加古川市社会教育・福祉教育推進員 公民館エリア研修会(両荘エリア)
兵庫県東播磨県民局	講師	東播磨ワクワクする未来づくりフォーラム
(特非)くすの木自然館	講師	共生・協働センター外部アドバイザー会議
稲美町教育委員会生涯学習課	講師	SNS を活用した広報のコツ
兵庫県社会教育行政主管者会	講師	社会教育とこれからのまちづくり
高砂市人権推進課	委員	高砂市男女共同参画審議会
(特非)北播磨市民活動支援センター	講師	まなび DAY_ 市民講師ふりかえり会
平岡町中地区社会教育・福祉教育推進員	講師	加古川市社会教育・福祉教育推進員 公民館エリア研修会(東加古川公民館エリア)
(公財)神戸市民文化振興財団	アドバイザー	チラシへのアドバイスフィードバック

活動計算書(簡易版) 2025年4月1日から2026年3月31日まで

(円)

科目	2025年度実績	2024年度実績	増減	
経常増減額	受取会費計	323,000	278,000	45,000
	受取寄付金計	92,024	114,666	△ 22,642
	受取助成金等計	76,914,125	70,338,903	6,575,222
	事業収益			
	受託料収益	26,804,000	28,956,000	△ 2,152,000
	利用料収益	21,014,424	17,645,279	3,369,145
	自主事業収益	17,117,475	16,730,312	387,163
	事業収益計	64,935,899	63,331,591	1,604,308
	その他収益計	944,574	655,811	288,763
	A 経常収益計	143,209,622	134,718,971	8,490,651
	事業費			
	事業費計	130,392,018	125,233,317	5,158,701
	管理費			
	管理費計	7,070,913	8,771,979	△ 1,701,066
B 経常費用計	137,462,931	134,005,296	3,457,635	
E 当期経常増減額(A-B)	5,746,691	713,675	5,033,016	
経常外増減額	過年度損益修正益	75,756	0	75,756
	C 経常外収益計	75,756	0	75,756
	雑損失	0	3,436	△ 3,436
	D 経常外費用計	0	3,436	△ 3,436
F 当期経常外増減額(C-D)	75,756	△ 3,436	79,192	
正味財産増減	G 税引前当期正味財産増減額(E+F)	5,822,447	710,239	5,112,208
	H 法人税、住民税及び事業税	82,000	82,000	0
	当期正味財産増減額(G-H)	5,740,447	628,239	5,112,208
	前期繰越正味財産額	45,845,684	45,217,445	628,239
	次期繰越正味財産額	51,586,131	45,845,684	5,740,447

貸借対照表(簡易版) 2026年3月31日現在

(円)

(円)

科目	2025年度実績	科目	2025年度実績		
I 資産の部	1 流動資産	II 負債の部	1 流動負債		
	小口現金		582,541	未払金	9,744,190
	普通預金		29,446,077	前受金	3,569,265
	未収金		4,068,834	預り金	5,000
	前払金		683,409	短期借入金	5,208,000
	立替金		19,135	未払法人税等	82,000
	短期貸付金		1,920,000	未払消費税等	1,343,400
	流動資産合計		36,719,996	流動負債合計	19,951,855
	2 固定資産			2 固定負債	
	有形固定資産		39,767,850	固定負債合計	20,398,000
	投資その他の資産		15,448,140	負債合計	40,349,855
固定資産合計	55,215,990	III 正味財産の部	正味財産期首残高	45,845,684	
資産合計	91,935,986		当期正味財産増減額	5,740,447	
			正味財産合計	51,586,131	
		負債及び正味財産合計	91,935,986		

2026年度事業計画

シミンひとりひとりの「やってみたい！」が循環し

「たのしい」が広がる東播磨をつくる たのしいのタネを育む 2026-2030

シミンズシーズが発足して25年目を迎えます。昨年度から新体制がスタートして1年目を迎えました。これまで、公共施設やまちなか、NPOや組織、教育や保育など、さまざまなフィールドで市民参加に取り組み、市民とともに実験しながら、新しい価値の創造に取り組んできました。そんな私たちが、これからの時代にどのような役割を担うことができるのか。その可能性を改めて見つめ直すタイミングとなりました。

私たちはこれまで、たくさんの「たのしいのタネ」に出会いました。ひとりひとり誰もがもっている「思いのタネ」。そんなたのしいのタネは「やってみたい！」という小さな好奇心から始まります。その好奇心を大切に丁寧に育むことに、私たちはこれからの社会への大きな可能性を感じています。「やってみたい！」という好奇心の広がり、既存の硬直した社会システムを柔らかく解きほぐす未来をもたらしてくれるはず。失敗を許容し、応援し合う文化が地域社会に広がり循環することこそが、これからのたのしい暮らしやまちそのものを形成する大きな要素と捉えています。

私たちは大きく変化する社会のなかで、ひとりひとりの「やってみたい」という好奇心を起点としたポジティブな社会循環の可能性を追求したいと考えました。ひとりひとりの「やってみたい！」を「できる！」に変えるコーディネーター集団として「たのしい！が広がる東播磨」をつくります。

2026年度の重点的な取り組み

指定管理施設「かこむ」6期目(2026-2030)をボランティアと一緒につくる

これまでの「つながる施設」と「市民参加型施設」の基盤を大切に、より軽やかに活動が生まれる施設運営を目指します。「やってみたい！ができる施設」として、シニアを中心としたボランティアと一緒に、新たな運営基盤をつくっていきます。

保育園事業のまち保育とユース世代の社会教育支援

「かわのまちほいくえん」では、毎日の運営をはじめ「まちの先生」との関わりや「みちあそび」の取り組みを通じて「まち保育」が少しずつまちへ広がりつつあります。「まち」で育つ機会をひろげ、ユース世代がまちで育つ支援にもチャレンジします。

中期 VISION を実行するための事業と体制検討とそれに伴う法人基盤整備

「シミンひとりひとりの「やってみたい！」が循環し、だれもがたのしく活躍できる毎日をつくる」ことを実現するための取り組みと体制を策定したいと思います。法人での多様な働き方についても 2027年度を目処にスタートできるよう検討してまいります。

1 まちづくり部門

市民参加型公共施設運営事業
まちなかの市民参加のプロデュース事業
講師派遣・デザイン事業

2 まちまなび部門

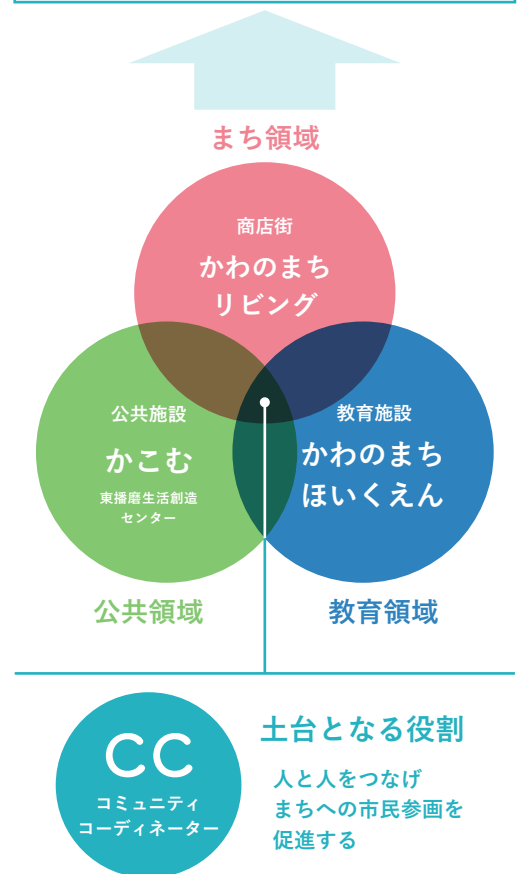
まちほいく事業
まちとまなび事業

3 シーズのジリツ(管理部門)

法人の基盤づくり
人材育成と評価制度等の見直し
法人広報と会員への取り組み

2030中期ビジョン

シミンひとりひとりの「やってみたい！」が循環し、「たのしい」がひろがる東播磨をつくる





シミズシーズ 2025 度年次報告書

発行元／問い合わせ先

NPO法人 **シミズシーズ**

〒675-0066 兵庫県加古川市加古川町寺家町 363-4

Tel : 079-422-0402 Fax : 079-421-0407 Mail : info@npo-seeds.jp Web : www.npo-seeds.jp